

日本最古の山城「大野城跡」

想定を超えていた場合には、水城や大野城を最終防御線にして、他からの援軍の到着を待ったのではないのでしょうか。

この防衛戦略は現代の自衛隊でも高く評価されていると聞いたことがあります。

どのような土木技術が使われていますか？

水城の築城には堤防や城壁などの高い壁を築くことができる「版築」の盛土技術が用いられています。枠板で挟んだスペースに土や砂を入れて棒で突き固め、これを繰り返して高く積み上げます。また、軟弱地盤の最下層には枝葉を敷き詰めて、下部の水圧を逃がして積土を安定させる敷粗衆という技術が使われました。

水城の築造に動員された人数やかかった日数は定かではありませんが、仮に一年で作るとしたら、毎日3500人の作業員が必要だとする試算もあります。



これに加えて、作業員への衣食住のサポートなどを考えると、やはり国家プロジェクトとして国家の総力をあげた事業だったといえるでしょう。

水城の保存と活用は進んでいますか？

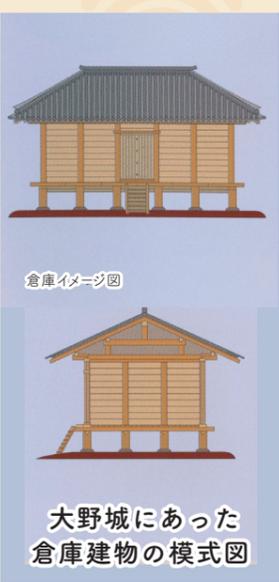
水城跡は水城の本体土塁だけでなく外濠と内濠があったことから、両サイドも指定地となり、現在土地の公有化がすすめられ、公有化された土地は、県と一緒に作成した計画に基づいて公園整備がなされています。

や石塁からなります。このうち「百間石垣」と呼ばれる石塁は、長さが180mにも達し、一部は岩盤を削りそこに高い石垣を築いています。この百間石垣は、敵を威圧するような圧倒的な存在感があったと思います。

大野城の城内には多数の建物があったようですが、それは兵舎などですか？

大野城内の丘陵の上には礎石群が残っています。50棟ほどの建物がまとまったグループを構成しています。間違いなく兵舎だとする建物は確認できていません。これらのほとんどは倉庫です。規模が大きいものは奈良の正倉院と同規模の倉庫だったと思われます。倉庫には武器武具もあつたと思いますが、ほとんどが粃米(稲穀)を取めた倉庫だったと考えられます。これら蓄えられていた米は、災害などが起こった際に、九州の各地に配布されていたことが出土史料から分かっています。一棟に四千斛の稲穀を貯えていました。全体で年間二十万人が食べる量です。

災害や敵の侵攻などの際に食の安全保障も担っていたようです。主食のコメは昔も今も有事の際には備えておく必要性は変わりなかったということですね。



今年3月には下大利駅近くの「水城外濠広場」も完成しました。しかし、水城跡は御笠川や鉄道、道路によって分断されています。将来的にう回をせずに一体的につながるような通路を県にも提案したいと思います。

大野城跡はなにがすごいですか？

古代に築城された山城を古代山城と呼んでいます。その古代山城の中で最も規模が大きく、土塁だけでなく谷筋につくられた石塁も壮大なものです。そのため大野城は古代山城の教科書のような存在です。また、城壁には出入りの門がありますが、これまでに9か所確認されています。長い期間の中で追加されたり、建て直されたりしています。

江戸城や大阪城のような平地につくられた城ではなく、山全体がお城ですね。しかも織田信長の安土城より900年も古く、日本最古の城ですからね。

大野城はいつだれが何の目的でつくったのですか？

朝廷は、水城を築城した翌年の665年に、中大兄皇子が兵法に通じた百濟からの亡命高官2名を派遣して大野城と基肄城を築城したことを『日本書紀』に記しています。朝鮮半島での戦争では山城を数多く築城します。敵国の山城

大野城跡のある四王寺山の名前の由来は何ですか？



大野城は築城後100年が経ったころから山城の使命を終えて、徐々に聖地へと姿を変えていき、今日まで信仰の山として知られています。きっかけは774年に、敵国新羅を仏法の力で抑え込むために、高く清らかな場所を選んで四天王寺(四王寺)をこの大野城と同じ山に建立しました。その後も九州での天変地異に対する祈禱などを行いました。国家にとって重要な寺院で、この寺院の名前から四王寺山と呼ばれるようになりました。軍事のとりでの山から仏教の山に変わり、その後も聖地として私たちを見守るように存在している大切な山ですね。

を攻め落とすことも一般的でした。敵国とされた朝鮮半島の新羅への迎撃を想定する際に、朝廷は山城築城を念頭に置いた朝鮮半島の軍事戦略や戦術を日本にも導入したのではないのでしょうか。

歴史上これほど巨大な山城を築かなければならないほど、当時の東アジア情勢は緊迫していたことが実感できます。

大野城の城壁はどのようなものですか？

四王寺山に登られた方はご存知だと思います。四王寺山は北に深い谷があり、まるでカルデラのように周囲が高い独特の地形です。その周囲をめぐるように自然地形を利用して尾根線に城壁が築かれています。城壁は主に土を搗き固めて積み上げた土塁と、石を積み上げた石垣



文化庁の「西の都」、日本遺産認定取り消しを受けての感想は？

この一報を受けて、私は落胆を通り越して憤りを感じました。どのように感じますか。特別史跡という本質的な価値は損なわれていないのは確かです。しかし、文化庁が新たに日本遺産というプレミアムブランドを作ったわけで、そこから落とされたのです。多くの人々は史跡の価値が下がったと思うでしょう。事実、認定取り消しで、小学生が泣いたという話もありました。日本遺産で新たに導入された取消制度にはがっかりです。

私は「西の都」の史跡群は地域の誇りであり、地域活性化につなげたいと県議会で訴えてきました。今回、観光振興策での評価が低くて取り消されたことに違和感を覚えます。

日本遺産の認定は地域活性化を図ることが目的でスタートしました。近年は観光活用へ重点が置かれるようになりました。

そのため、関係自治体も地域内で日本遺産「西の都」の認知度を上げることを行ってきました。さあこれから観光振興を展開する矢先での取消です。せっかく福岡県を中心にした協力体制がありますので、史跡活用の取組みを継続すべきです。「福岡アジア遺産」など新しい遺産を独自に創設してはいかがですか。

それは面白い考えです。私は本来これらの史跡群は、世界遺産に登録されるべき価値があることを様々な場で発言してきました。ピンチをチャンスに、地方創生の観点からも新しい取り組みを地域一丸となって進めましょう。

※図と写真は関係自治体と館長より提供。